

諸福小だより

大東市立諸福小学校
令和元年10月4日(金)
校長 小林 享子
072-873-5816

どうしたらできるか 一目的に向かっていく努力

日本人の発明家は多くいらっしゃいますが、「日本の十大発明家」(特許庁選出、1985)によりますと、

1. 豊田佐吉(織物の機械)
2. 御木本幸吉(養殖真珠)
3. 高峰譲吉(タカチアスターゼ、アドレナリン)
4. 池田菊苗(グルタミン酸ナトリウム)
5. 鈴木梅太郎(ビタミンB1、ビタミンA)
6. 杉本京太(邦文タイプライター)
7. 本多光太郎(KS鋼、新KS鋼)
8. 八木秀次(八木・宇田アンテナ)
9. 丹羽保次郎(NE式写真電送機)
10. 三島徳七(MK鋼)の10名の方があげられています。

皆さんの名前と業績がおわかりでしょうか?

このように、日本の発明家として、たくさんの方がおられますが、最近ですと、青色ダイオードの発明で有名になられた中村修二さんが、自著のなかで、ご自身の経験を語られています。

その中に、人生で一番大切なキーワードとして、「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考える」をあげておられます。中村さんは、自分の専門外の仕事から独学に近い状態で研究し、部品の調達から研究機材の作成までされ、最終的には、赤色・青色ダイオードの発明をされたのです。

会社員時代にはまだ発明されていなかった特殊な青色発光ダイオードの開発をしたいと社長にお願いし、会社から3億円の開発費用をいただきました。その後、研究に使う機械をつくり勉強をするため、フロリダ大学に1年間留学し、日本に戻ってから、研究の装置の改造に取りかかりますが、研究の取りやめを求められます。その後、窒化カリウムの結晶を作製する新しい機械を発明し、青色発光ダイオードの発明につながっていくのです。

私たちは、色々な壁にぶつかると、壁を乗り越えようと努力し、それでもうまくいかない時には、「〇〇がないからできない」とできない理由を探してしまうことがあります。

しかし、中村さんは、「〇〇がないからできない」ではなく、「自分のやりたいことは〇〇だ」という前向きな姿勢で、自分で決めた目的に向かっていきました。その努力の結果が、新しい発明に繋がっていったのだと思います。「目的に向かっていく努力」を自分の生活のなかに位置づけていくことが、これからの一人ひとりの「目的に向かう道」に繋がっていきます。子どもたちの夢を育み、それを支えていくことを私たちの使命と考え、子どもたちの毎日を見つめていきたいと思ひます。子どもたちの頑張りを是非、応援してください。

《6年生が平和への思いを含め、全児童と一緒に折り鶴集会》



6年生が、10月27日(日)28日(月)修学旅行に行きます。9月30日、10月1日の折り鶴集会で、全児童が折り鶴を折りました。「6年生は修学旅行で広島へいきます。そこは世界で初めて原子爆弾が落とされた街で多くの方が亡くなりました。2歳の時に、原爆による被ばくを受けて12歳の時、白血病でなくなった少女、佐々木貞子さんのことを思って作られた「原爆の子の像」に捧げるために平和の大切さ命の尊さを願って千羽鶴を折りました。」平和の祈りが届くことを願ひます。